

策定年月	令和6年2月
見直し年月	令和7年2月

麦・大豆国産化プラン

産地名：伯耆町

（作成主体：伯耆町地域農業再生協議会）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

伯耆町は鳥取県西部に位置し、本町の農地は、総面積の11.9%に当たる1,660haの耕地が大山山麓の傾斜地と一級河川日野川沿いの平坦地、並びに日野川支流野上川沿いの谷あいには広がっている。全耕地面積に占める水稻作付面積の割合が約57%であり、転作作物としては、伯耆町推進作物（白ねぎ、ブロッコリー、白菜、すいか等）、WCS用稲、飼料用米の面積が多いが、近年では、農業者の高齢化と後継者不足及び担い手不足により離農される農家もある状況があり、その一方で経営規模の拡大等に意欲的に取り組む認定農業者や若手の担い手となる新規認定就農者も微増ながら増えつつある状況である。また農地の貸し借りによる規模拡大と農地の集約化を図り生産性を高めるよう農地の流動化対策を関係機関と連携して取り組んでいる。

【麦・大豆生産の現状と課題】

本町の麦・大豆の作付面積（R6）は、15.1ha（麦4ha、大豆11.1ha）で全体の約0.9%で、海外からの輸入依存が高い作物である。しかしながら近年大豆の作付面積は拡大傾向であり、伯耆町地域農業再生協議会でも新たに大規模に大豆作付を行っている農家への支援を決定し、一層の収量、品質向上を目指して作付面積の拡大を強化する方針としている。

また課題として、麦・大豆ともにほ場内の排水対策が重要であるなか、近年の温暖化による大雨が原因で発芽不良などが起きている。このため、湿害対策と高性能機械のドローンを使用したセンシング技術の導入により生産性の向上を図りたい。

【課題解決に向けた取り組み】

湿害対策の強化を図るため心土破碎や弾丸暗渠施工を行って排水処理の向上を図り、農業用ドローンによるほ場センシングや農薬肥料散布を行い効率性の向上を図っていく方針である。

※ 麦・大豆生産における課題（湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等）を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

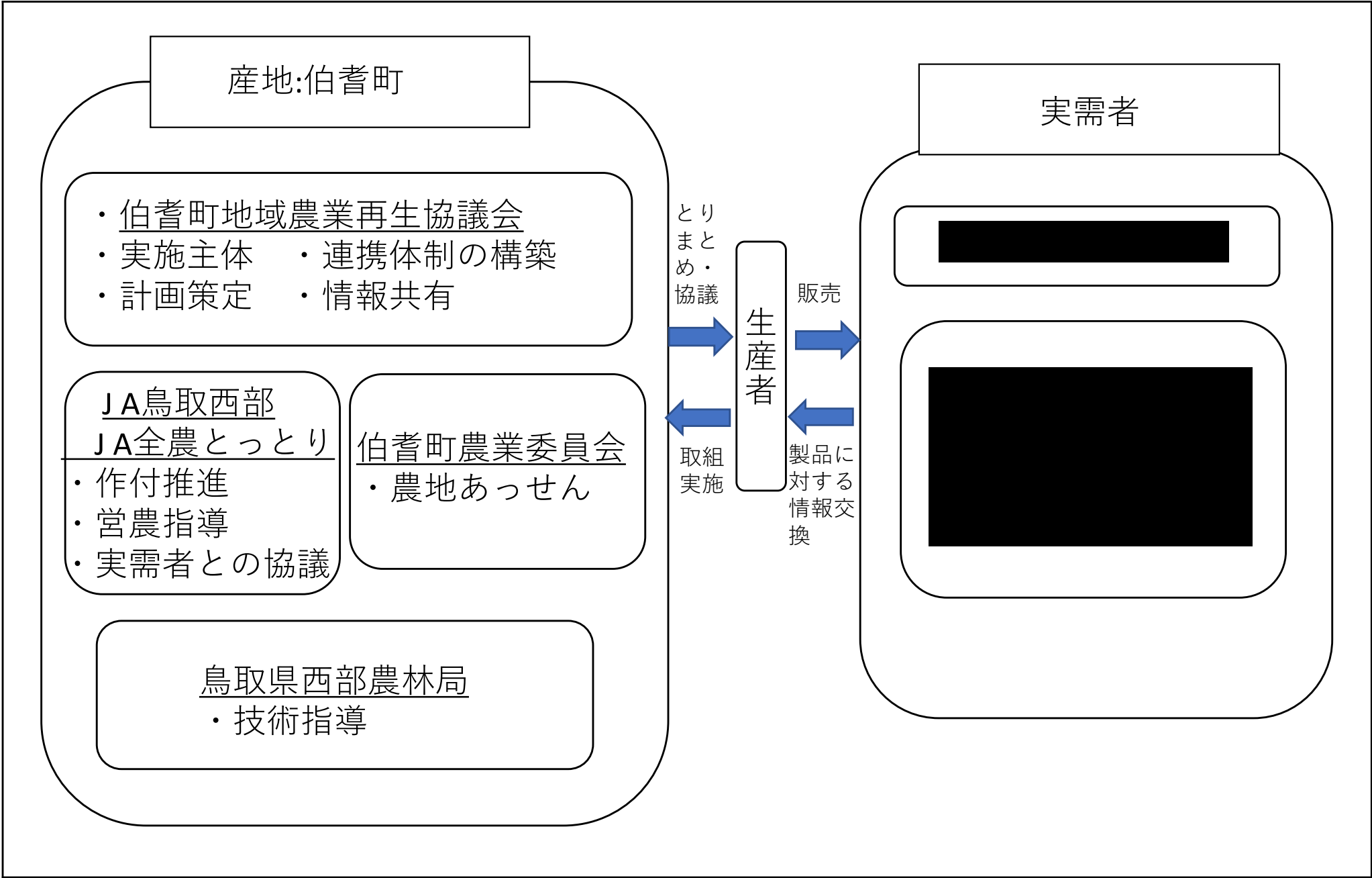
本町では、主に大豆生産の強化を図り、各農家で収穫された大豆は [redacted] 組合(以下 [redacted] という。)から [redacted] へ全量出荷している。

〈大豆〉

	産地：伯耆町農業再生協議会	実需者： [redacted]	最終実需者
R6現状(R5)	12,815kg	12,815kg	[redacted]
R7現状(R6)	21,454kg	21,454kg	[redacted]
R6目標(R8)	18,000kg	18,000kg	[redacted]
R7目標(R9)	25,219kg	25,219kg	[redacted]

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。
※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。
なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。
※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。